

### 3. 基本理念、将来像及び基本方針等

臨海部の課題・要請事項を踏まえ、基本理念、将来像および基本方針を以下のとおりとしました。

#### 3.1 基本理念

巨大古墳の築造、南蛮貿易の中核港、町衆文化・茶の湯の発祥の地、東洋一の海水浴場・水族館、日本の民間航空の発祥、海から育った様々な伝統産業、高度経済成長期を支え現在は世界を牽引する先端・環境技術の集積が進む工業地帯など、堺は、中世に「東洋のベニス」と呼ばれたように、海から発展してきたまちであり、その海辺は「黄金の日々・堺」の象徴であるとともに、「もののはじまりなんでも堺」と言われるように時代々々のパラダイムを先取りし発展してきた堺の原点・活力源であり、後世に引き継ぐべき市民の貴重な財産です。

しかしながら、堺の海辺と市民との結びつきが弱まり、海辺の貴重さや市民の海辺への関心、思いが薄れるとともに、海辺が本来有する様々なポテンシャルを十分に活かしきれていないのが現状であり、かつての「白砂青松」の美しい海岸線、「<sup>うみ</sup>茅渚の海」とよばれ魚介類が豊富な海域が失われています。

さらに、近年、市民の価値観やライフスタイルの変化や多様化が著しく、ゆとりやうるおい、グローバルな環境への配慮が求められるようになった今日、こうした新たなパラダイムへの柔軟な対応がもとめられています。このため、臨海部において、公共先導のもと、会合衆に代表される「自由と自治」、「もののはじまりなんでも堺」の精神を活かし、全国に先駆けて、市民が活動の主役となって、21世紀という新たな時代に相応しい、賑わい・憩い・癒し・環境が調和した海辺、“おもてなし”あふれる海辺など、みんなが力を合わせながら、みんなのための海辺を形成していくことにより、貴重な財産であり潜在的なポテンシャルを有する堺の海辺の再興・発展を図り、未来の堺を担う子どもたちに伝承していくとともに、市域全体の活性化に波及させていくことが重要です。

こうしたことから、基本理念を

#### 『市民の財産「堺の<sup>うみ</sup>“海”・<sup>はま</sup>“浜”」の再興・発展・継承』

としました。